

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：上天草市統合版アプリの開発
 (令和5年度事業費：3,267千円／交付金1,633千円)

事業の概要

◆オンライン上の統一窓口となる統合版アプリを開発し、市の公式LINEを活用してスマホから行政手続の申請や日常生活に必要な情報の取得、生活の利便性の向上に資する各種手続きを可能とすることにより、市民のニーズに合ったサービスを提供し、住民の利便性の向上を図るもの。

＜主要事業＞①統合版アプリサービスの開発

担当課
評価

B

交付金の事業要件である年度内実装を目指し統合版アプリの開発を進め9月末には、行政情報発信機能やオンライン申請機能、オンライン通報機能等、20機能に係る住民リリースを開始することができた。

市民の利用状況として、令和5年度の目標であったオンライン申請件数100件は達成できたものの、利用満足度は46%と目標を達成できなかったことから、今後は更なる市民の利便性向上に向け、市民の意向を確認しつつ、様々な機能を開発しアプリの機能拡充に努めていきたい。

事業を進める中での課題・苦労

本市のDX推進は、『「ユーザー（利用者）中心」便利で快適なデジタル化』をキャッチコピーとしており、アプリの機能開発においても、利用者目線に立ち、市民が求める機能について検討を重ねていく必要がある。また、機能開発は、業者に開発依頼することなく、職員が開発を行っていることから、全庁的なアプリ活用を進めていくためには、機能開発に係る職員のスキル向上に努めていく必要がある。

改善（令和6年度以降における取組みなど）

令和6年度以降も更なる住民サービスの向上に向け、オンライン申請手続の拡充など、住民の利便性向上に資する機能の開発に取り組んでいく予定。また、機能開発に当たっては、市民が求めるサービスを提供できるよう、市民意識調査や他自治体の優良事例等を参考に各種検討を重ねていくとともに、職員の機能開発スキルの向上に向け職員研修等を開催していく予定。

推進会議
評価

A

- ・ほぼ評価項目に達しているため「A」評価とする
- ・デジタル田園都市では全ての活動についてDXをインフラとして投入するため、本事業は非常に重要である

企画政策部 行革デジタル戦略課

主な重要業績評価指標（KPI）

◆行政手続に係るオンライン申請件数 事業開始前 0件

	R5	R6	R7
目標値	100	200	350
実績値	153		
達成状況	○(153%)		

◆上天草市公式LINE登録者数（アプリ利用者数） 事業開始前 11,330人

	R5	R6	R7
目標値	11,600	12,281	13,510
実績値	11,975		
達成状況	○(103%)		

◆アプリ利用者の利用満足度 事業開始前 0%

	R5	R6	R7
目標値	50	60	75
実績値	46		
達成状況	×(92%)		

◆マイナンバーカード普及率 事業開始前 64%

	R5	R6	R7
目標値	65	75	85
実績値	72		
達成状況	○(111%)		

申請手続のイメージ



A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：道路基礎情報の電子化及び公開による市民サービスの向上
 （令和5年度事業費：111,796千円／交付金55,898千円）

事業の概要

◆本事業では、市民・事業者等が各自に適した手法・機会 で情報を取得できるよう、インターネットで利用する「公開型GIS」と庁内窓口で利用する「窓口対応システム」を構築し、本市の道路基礎情報等を地図として分かりやすく公開する。あわせて道路通報システムを構築し、道路に係る要望苦情を収集する。これらの取組みを一体的に行いデータ相互連携の仕組みを作ること、道路行政のDXと安心して利用できるインフラの維持・管理を実現する。

＜主要事業＞

- ①公開型GISによる道路基礎情報の公開②窓口対応システムの構築による情報提供の効率化
- ③道路通報システムによる道路情報の収集・利活用

**担当課
評価**

C

当初計画では、令和6年1月中旬ごろにはシステム構築が完了する予定であったが、道路の現地調査において、道路幅員が狭く車両での調査ができず、人力での調査となり時間を要したこと等からスケジュールに遅延が生じ、システムの運用開始が3月19日となった。

同影響により、システムに係る住民周知及び建設課内の運用構築（案）の作成などに時間を要したため、目標達成には至らなかったものと分析している。令和6年度は、市HPや広報誌、LINE等を活用した市民への周知、また、窓口におけるチラシの配布等の対策を講じることにより、目標の達成及び更なる利用促進に努めたい。

事業を進めるうえでの課題・苦労

利用者を増やすため、導入したシステムに係る周知を行い、利用促進を図っていく必要がある。具体的には、周知用チラシや、市HPに掲載したお知らせなどを、人の目に留まるための更なる工夫が必要であり、関係機関等との連携も必要である。

また、窓口対応システムで公開するコンテンツを拡充するため、建設課が保有するデータと、各部局が所有するデータをそれぞれ整理するとともに、公開対象データ及びその公開方法等について、関係部局と協議・調整を行っていく必要がある。

改善（令和6年度以降における取組みなど）

令和6年度以降も住民サービス向上を図るためには、まずは構築したサービスについて住民に認知・理解していただく必要があることから、市HPや広報誌、市公式LINE等を活用し、システム関連記事の掲載を行うとともに、市役所窓口で周知用チラシ等を設置し、周知活動を推進していく。

また、窓口対応システムに掲載可能な情報について、各部局と協議を進めるとともに、市民目線での操作性、運用の妥当性等の情報収集を進めていく。

**推進会議
評価**

C

- ・アンケート未実施など課題が多く「C」評価であるが、非常に重要な活動
- ・「行かない市役所」はネガティブな印象を与えるため、変更可能であれば「どこでも市役所」「いつでも市役所」などDXを使って便利になったことをイメージできるネーミングを検討して欲しい
- ・全部行政でデータ化するのではなくボランティアや市民と一緒にデータ化する活動のやり方を検討して欲しい

建設部 建設課

主な重要業績評価指標（KPI）

◆ **公開型GISのアクセス数**

事業開始前 0 件

	R5	R6	R7
目標値	100	200	300
実績値	44		
達成状況	×（44%）		

◆ **窓口対応システムで提供可能なデータの種類の**

事業開始前 0 件

	R5	R6	R7
目標値	6	8	10
実績値	6		
達成状況	○（100%）		

◆ **「行かない市役所」に係る市民等の満足度向上**

事業開始前 0 %

	R5	R6	R7
目標値	60	70	80
実績値	-		
達成状況	×（0%）		

◆ **道路基礎情報の取得に係る来庁者の負担軽減**

事業開始前 0 %

	R5	R6	R7
目標値	60	70	80
実績値	-		
達成状況	×（0%）		

公開型GISのイメージ



【基本目標】市民が結婚・出産・子育てしやすい環境を整備する

事業名：オンライン学習塾開設事業
(令和5年度事業費：704千円／交付金352千円)

事業の概要

◆ 自宅や公共施設等において、比較的安価な費用負担で受講可能な高校受験対策を目的としたオンライン塾を開設。受講者の学力向上、保護者の費用負担の軽減等を図ることにより、学習意欲を喚起する環境を構築し、学習環境の地域格差を解消する。

＜主要事業＞

①オンライン塾の開設

担当課
評価

B

オンラインの実施時期が夏休み期間だったため、4月から業者選定に取り組んだが、各中学校への説明及び保護者への募集の期間が十分でなかった影響もあり、目標の生徒数の参加者が確保できなかった。

参加生徒及び保護者の満足度、意見等はおおむね良かったので、一定の効果があったと評価できる。

事業を進めるうえでの課題・苦労

公募型プロポーザル方式により契約候補者を選定をする必要があったため、時間を要し、契約締結が6月となり、各中学校への説明、保護者及び生徒への募集期間が十分とれなかった。

また、生徒に配布されているタブレット端末へのアプリ設定が必要なため、関係部署等との調整に時間を要した。

改善（令和6年度以降における取組みなど）

令和6年度以降もオンライン塾に取り組むことで、学習塾のない地域課題が解決できるため、参加生徒数を増やす取組を計画し、事業を拡充していく予定。

推進会議
評価

B

- ・持続可能性が担保できるような活用策を検討すべき
- ・上天草高校生とワークショップを行い、オンライン塾サービスの充実に向けた高校生らしい意見をもらうとよい

教育部 社会教育課

主な重要業績評価指標（KPI）

◆オンライン塾に参加した生徒数 事業開始前 0人

	R5	R6	R7
目標値	20	30	40
実績値	13		
達成状況	×（65%）		

◆保護者の満足度 事業開始前 0%

	R5	R6	R7
目標値	60	70	80
実績値	86		
達成状況	○（143%）		

◆受講者向けテスト平均 事業開始前 0点

	R5	R6	R7
目標値	10	20	30
実績値	35		
達成状況	○（350%）		

◆受講者の満足度 事業開始前 0%

	R5	R6	R7
目標値	80	85	90
実績値	88		
達成状況	○（110%）		

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
**事業名：図書館のデジタル化による機能強化
 及び歴史を起点とした観光誘客事業**
 （令和5年度事業費：49,192千円／交付金24,596千円）

事業の概要

◆ 新大矢野図書館において、デジタル環境の整備「電子図書館システム（電子書籍含む）、体験型デジタルコンテンツ、施設案内システム等」を行い、施設への誘客を図り、多くの市民が文化活動に参画する心豊かな地域づくりを目指す。

<主要事業>

- ①電子図書館の整備 ②施設案内アプリの整備 ③体験型デジタルコンテンツの整備
 ④インタラクティブホワイトボードの整備

**担当課
評価**

B

本と歴史の交流館の開館と同時に運用できるよう、デジタルコンテンツ、施設案内サイト、電子図書館及びインタラクティブホワイトボードの整備を進め、令和5年10月1日の開館時にすべて運用開始することができた。令和5年度実績として、入館者数や体験型デジタルコンテンツの稼働回数においては目標を達成できたものの、その他が未達成となっていることから、利用案内や周知を更に行うほか、施設案内サイト及びインタラクティブホワイトボードにおける情報発信内容の充実を図る。

事業を進めるうえでの課題・苦労

本事業により導入した各コンテンツの利用状況を見ると、初期導入時と比較し、ゆるやかに減少傾向にあるため、定期的・継続的な周知・広報が必要である。また、施設案内サイト及びインタラクティブホワイトボードについては、告知内容の充実と頻回な情報更新が必要であり、一定のスキルも要することから、複数の職員のスキル獲得と向上に努めていく必要がある。

改善（令和6年度以降における取組みなど）

令和6年度以降も利用率等の向上に向け、情報発信や内容の充実に取り組む。また、館内デジタル機器の情報更新等に係るスキルアップのため、勉強会を開催する。なお、公設未来塾については、令和5年度において開催時期の調整がつかず春休み期間中の開催となり、受講者数が少なかったことを踏まえ、学校との意見交換等を早期に行い、計画的な開催に繋げる。

**推進会議
評価**

A

- ・コロナ禍も落ち着いてまもなくだったが「イコット」をつくっただけでも「A」評価
- ・公民館的な活動や上天草高校生たちがシビックプライドを涵養する人材育成プログラムを実装できるとよい
- ・観光客と上天草高校生とのワークショップを協働でできるとよい

教育部 社会教育課

主な重要業績評価指標（KPI）

◆ 施設の入館者数		事業開始前 0 人	
	R5	R6	R7
目標値	9,100	21,000	30,000
実績値	36,439		
達成状況	○（400%）		

◆ 貸出冊数（電子図書含む）		事業開始前 0 冊	
	R5	R6	R7
目標値	68,000	60,000	80,000
実績値	60,257		
達成状況	×（89%）		

◆ 施設案内アプリ利用者数		事業開始前 0 人	
	R5	R6	R7
目標値	4,000	10,000	15,000
実績値	2,342		
達成状況	×（59%）		

◆ 体験型デジタルコンテンツ稼働回数		事業開始前 0 回	
	R5	R6	R7
目標値	3,000	7,500	9,000
実績値	3,077		
達成状況	○（103%）		

体験型デジタルコンテンツ



A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。